

1

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字のよみをひらがなで答えなさい。

- ① 世界記録を樹立する。
- ② 長い船旅を楽しむ。
- ③ ごはんを蒸らす。
- ④ のき下で雨宿りする。
- ⑤ あなたを悲しませるつもりは毛頭なかった。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 大切なデータがショウシツしてしまった。
- ② シャワーをアびる。
- ③ 道路をカクチヨウする。
- ④ テチヨウに連らくを書いておく。
- ⑤ 春と秋には、コクモツの種をまく。

(3) 次の①～⑤について、あとに続く正しいことばを選び、記号で答えなさい。

- ① 毎日同じことをしていると、いやげが 【ア する イ さす】
- ② おばさんの家に行く途中に道草を 【ア 食べる イ 食う】
- ③ だれも何も言わないので、花子さんが口火を 【ア きる イ ひらく】
- ④ かぜをひいて体調を 【ア こわす イ くずす】
- ⑤ 自分のことは たなに 【ア 上げる イ のせる】

(4) 次のことわざと意味が反対のものをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 善は急げ
- ② あぶはち取らず
- ③ とびがたかを生む
- ④ 下手の横好き
- ⑤ 得を取るより名を取れ

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| ア かえるの子はかえる | イ 花より団子 | ウ 好きこそものの上手なれ |
| エ 一石二鳥 | オ せいては事をしそんじる | |

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

①「うなぎの寝床^{ねどこ}」という言葉を知っていますか。

ウナギがすんでいるのは、川の石の間にできた穴や水底の泥^{どろ}の中です。自分の細長い体に合わせて、ちょうどいい「寝床」をさがします。入り口がせまくておくの深い穴の中になると、敵^{おそ}に襲^{おそ}われにくいでしょう。それにウナギは、自分の体を周りの壁^{かべ}にぴったりくっつけているのが大好き。だから、細長いウナギはおくが深い穴の中にすみつきます。

それで、入り口がせまくて、おくが深い建物や場所のことを、「うなぎの寝床」というのです。

もうひとつ、「うなぎのぼり」という言葉もあります。

これは、物の値段や温度がどんどん上がることのたとえ。ウナギが川や滝^{たき}を力強くよじのぼっていくところから出た言葉でしょう。しかし、別の理由もあるといわれています。

体がぬるぬるしているウナギはともつかみづらいです。にゆるつとすぐ手から抜け^ぬけてしまいます。それをつかもうとしても、またにゆるり^Bとにげる。つかもうとするたびに、ウナギはどんだん上の方にのぼります。

②このように、思いがけないのぼり方をするウナギの動きから、「うなぎのぼり」という言葉がうまれたともいわれています。ウナギがぬるぬるしているのは、皮ふから大量に出てくるねばねばした液体のため。この液体のことを「粘液^{ねん}」といいます。ウナギの体は、全身がこの粘液でおおわれています。そのため、つかもうとしてもすべりやすく、なかなかつかめずに、指の間からにゆるりと抜け^Bけてしまうのです。

粘液は、ウナギ以外の魚の体にもあります。

1

、ウナギは粘液の量が特別に多いのです。粘液が体を保護してくれるので、せまい岩穴の中で壁とゴシゴシこすれても体がいたみません。

2

、水の中のバイ菌^{きん}が体の中に入ってくるの

も防いでくれます。

また、粘液は、ウナギの呼吸にも役立っています。

わたしたち人間は主に肺を使って呼吸をしますね。でも、魚やエビ・カニ・イカ・タコなど、水中にすむ動物は、体の一部が変化してできた、エラを使って呼吸をしています。

魚のエラは大切な部分なので、魚の口の後ろに大事にしまわれています。人間の体でいうと、顔のほおの内側にあたるところにあります。水そうに^Cいる魚を見ると、顔のちよつと後ろの部分がパタパタ動いているのがわかるでしょう。この中に細かく枝分かれしたくし^Dのようなエラが入っていて、水中に溶^とけこんだ酸素を取りこんで呼吸をしています。これを「エラ呼吸」といいます。

普通の魚は、水から出たとたん、十分な酸素が取りこめずに、呼吸ができなくなつて死んでしまいます。でも、ウナギは水から出ても、しばらくは平気で生きています。それは、ウナギがエラ以外に、^③皮^{かわ}ふからも空気中の酸素を取りこめるからです。これを「皮ふ呼吸」といいます。

ウナギは、この皮ふ呼吸が得意。必要な酸素の半分くらいは、皮ふから取りこむことができます。このとき、体全体をおおっているぬるぬるした粘液が役にたちます。粘液は空気中に出たときに体の表面の水分を保ち、乾燥^{かんそう}を防ぎます。また同時に、空気中の酸素を粘液の中に取りこんで、これで呼吸をします。

滝^{たき}の脇^{わき}のぬれた岩をよじのぼつて、上流に移動するときにも、粘液は役立ちます。百メートル以上もある高い滝も、へつちやらでのぼるといわれています。

ウナギにはいろいろな超^{ちよう}能力がありますが、その秘密を解くかぎのひとつは、この粘液かもしれない。

一方、ウナギの目はあまりよくありません。明るい暗いはよくわかりますが、物の形をしっかりとらえるのは不得意なよ

うです。それに比べて、鼻は驚くほど優れています。陸上で鼻のよい動物の代表はイヌです。ウナギは、イヌと同じくらい鼻がよいといわれています。

ウナギは昼は穴の中で休み、夜になると活動をはじめてえさをとりに出かけます。夜は光がないので、目がよくなくてもあまり困りません。3、鼻のよい方が役にたつのです。

もうひとつ、えさをとるときに役立つものが、顔や体の両側に点々と並ぶ「側線」というもの。これで、体の近くで動く物を感じとることができます。

ために、目をつぶってみてください。ほおに当たる風で、何か近くで動いたことがわかるでしょう。この感覚と同じです。魚は目の代わりに、この側線が特に発達しています。^④側線があれば、真つ暗な夜でも安全に動き回ることができま

す。大好きなエビやカニ、小魚などのえさが近くにいることもわかるのです。これもウナギの超能力のひとつです。

ウナギは、普通の魚とはちがう形をしていて、独特なすみかや動きをもつことがわかりました。それに、粘液や側線などを使って、驚くべき超能力を発揮することもわかりました。

^⑤ウナギは本当は魚なのだけど、「魚らしくない魚」ということができます。

(塚本勝巳『うなぎ 一億年の謎を追う』より。一部表記を改めたところがあります。)

問1 1 3 にあてはまることばを次から選び、記号で答えなさい。

ア また イ むしろ ウ したがって エ しかし

問2 〓線A～Dの「いる」の中で、一つだけ使い方がちがうものを選び、記号で答えなさい。

問3 〓線①「うなぎの寝床」とありますが、

(1) 「うなぎ」が「寝床」として好むのはどんな場所ですか。文中から16字でぬき出しなさい。

(2) (1)で答えた場所を好む理由を二つ答えなさい。

(3) 「うなぎの寝床」のように、その動物の特ちょうから生まれたことばが正しく使われている一文を次から選び、記号で答えなさい。

ア 先生の毎朝のお話ですずめのなみだだ。
イ 水たまりを元気にからすの行水で歩く。
ウ 北海道と東京をとんぼ返りで往復する。

問4 〓線②「思いがけないのぼり方」とありますが、どんなのぼり方なのか、具体的に説明しなさい。

問5 ———線③「皮ふからも空気中の酸素を取りこめる」とありますが、これは何のどんな働きがあるからですか。わかりやすく説明しなさい。

問6 ———線④「側線があればよくできます」とありますが、それはなぜですか。わかりやすく説明しなさい。

問7 ———線⑤「ウナギは本当はよくできます」とありますが、この文章で「ウナギ」について述べていることとしてあてはまるものには○、あてはまらないものには×を答えなさい。

- ア ウナギの生活パターンから考えると目よりも鼻がよい方が便利だ。
イ 側線は水のおいを感じることでできるので上流に移動する時に役立つ。
ウ ウナギは普通の魚のようにエラ呼吸はせず、皮ふ呼吸をしている。
エ ウナギは普通の魚に比べて粘液の量が多い。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」「や」「。」「も」一字に数えます。)

まどかは、隣で道場を開いているおじいちゃんのところ大好きな柔道を習いに行っている、小学四年生の女の子。おとうさん、おかあさんと高校二年生でミュージシャンを目指しているおにいちゃんがいて、とても仲の良い家庭で育った。ところがある日、家に突然アイドルの櫻井華子が訪ねてきた。しかも、どうやらおかあさんと親友らしい。今までそんなひみつがあるなんて知らなかったのに――。

櫻井華子だよ！ 櫻井華子が家に来てるんだよ！ ①そう触れまわりたいくらいだったけれど、もちろんそんなことはしなかった。なにしろ、おかあさんは今日まで櫻井華子と友達だとは一言もいわなかったのだ。何か話したくない理由があるに違いない。

ほんとうだったら、「ご本人登場！」っていう場面なのに、ぜんぜんそんな雰囲気じゃなかった。櫻井華子もおかあさんももつとずっと自然で、まわりで見ている私のほうがどきどきしちゃって、どうしたらいいかわからなくなつて。

櫻井華子はたしか福岡だったか、九州の出身だし、なにしろアイドルだし、じゃあ、いったいどこで友達になったんだろう。学校じゃなければ、どこで？ あれ、今朝、おかあさん、やりたかったことを途中でやめたつていかなかったつけ。途中つてことは何かしてたつてことだね。②どんなことをしていたんだろう――そこまで考えていて、ぞくぞくと背筋に寒気が走った。

おかあさんは――。

おかあさんは、幼なじみだったおとうさんと、高校卒業を待ってすぐに結婚したんじゃないかった？ 高校卒業が十八歳で、今、おにいちゃんが十七歳だから、足すと三十五歳で、うん、おかあさんの歳と合ってる。

でもさ、それじゃ、いつ、何をしてたんだろう。結婚するまで高校生だったんだよ？ 何か隠してる？ うそついてる？

おかあさん、どれがほんとうなの？

家のドアを閉めて、庭続きの道場へ向かう。

道場へ入るときには、すっかり気持ちを切り替えていなければ。足を止め、目を閉じて、ゆつくりと深呼吸をする。吐いて、吸って、止めて。吐いて、吸って、止めて。

閉じたまぶたの裏に、緑の野原が浮かんだ。私はひとりで野原の真ん中に立っていた。

おいしい緑の空気を胸いっぱい吸い込んで、ついさつきまで隣には大好きなおかあさんとおとうさん、おじいちゃんとおにいちゃんがいた。どこかのこずえから、カッコウが鳴いている。家族が笑っているだけで、他には何もいらなかった。いいにおいがしていた。ああ、これは私があこがれていたひみつのにおいだ。みんなが笑っていたからすっかり安心して、ひみつが鼻をくすぐったんだ。うーん、いいにおい、つて私は思った。それは頭上に太陽が出ていたからなんだ。

野原で笑っていたはずが、道に迷って森に足を踏み入れてしまった。鳴いているのはもうカッコウじゃない。なんていう名前の山鳥なのか、シヨージキ、シヨージキ、と甲高い声でさえずっている。そうだ、おかあさんはうそをついていた。ひみつを持っていた。そう思ったら、とたんに日が陰った。うっそうと茂った樹々が急に枝を伸ばして、風が吹くたびにざわざわ鳴って、そうしたら木の枝が怖くなって、鳥が鳴くのも恐ろしくなっている。

ひみつなんて影も形もなくなればいいのと思う。ひみつなんていらぬ。今となつては明るい野原がうらやましい。おなかが減るみたいに胸が減ってぐうって鳴るくらい、ぺこぺこすぎて涙が出るくらい、家族の、おかあさんのほんとうの

笑顔がほしかった。怖い。野原に出たい。ひみつはいらない。

「まどか、どうしたの」

名前を呼ばれて目を開けた。

道場の入り口のところに彰宏くんが立ってこっちを見ていた。

「ううん、どうもしないよ」

首を振ったら、思いがけず、涙がぼろんとこぼれた。

彰宏くんは驚いたような顔をしてこっちを見ていた。私だつてびっくりしていた。人前で泣くことなんてもうずいぶんなかったのに、だいいち泣くつもりなんかなかったのに、いったいどうしちゃったんだろう。

あわてて手の甲で涙を拭いて、無理やり笑った。唇の端がひくひくつてなつて、あんまりうまく笑えなかったけど。

「どうしたの」

彰宏くんはもう一度聞いた。私ももう一度首を横に振る。

「どうもしないよ」

すると彰宏くんはゆつくり、そろおりと笑顔になった。あ、笑顔っていいなあ、と思った。笑顔を見るだけで、ぎゅうぎゅう固くなっていた心がやわらかくほどけるのがわかる。

「ありがとう」

小さな声でいったのが聞こえたのか聞こえなかったのか、彰宏くんは笑顔のままそこに立っている。

なんとなく動けなかった。私たちはしばらく向かい合って立っていた。それから急に彰宏くんが空を見上げた。つられて私も空を見た。

「上を向ういてあーるこおおう」

風に紛れ^{まぎ}そうな声で彰宏くんが歌っていた。

「涙がこぼれないよおに」

その歌があまりにも調子つばずれたたから、思わず吹き出してしまった。そうしたら、彰宏くんも吹き出して、私たちは顔を見合せて笑った。

④ それだけで、それだけで、空の色が変わったような気がする。ふわっと一段階明るくなった。

「あのねえ」

彰宏くんに話しかける。

今、うちの玄関に誰^{だれ}が来てると思う？

それはいわずに、家から道場のほうへ足を踏み出す。

「いろんなことがあるねえ」

私がいようと、彰宏くんは笑ってうなずいた。

「いろんなことがあるよなあ」

今まで考えたこともなかったけれど、きつとほんとうに彰宏くんにもいろんなことがあるんだろう。そう思わせるような口ぶりだった。

「俺^{おれ}たちにはここがあつてよかったな」

ここ、と彰宏くんが指したのはおじいちゃん^{おじいちゃん}の道場だ。

⑤ うん、ほんとに、ここがあつてよかった」

どんなときでも打ち込めるものがあつてよかった。柔道があつてよかった。小さいころからいっしょにがんばってきた仲間^{仲間}がいて、ほんとうによかった。

「俺、まどかのこと仲間だと思つてきたよ」

彰宏くんが道場に入る前にいった。

「だって、仲間だよね？」

「うん。仲間だ」

彰宏くんはなんだか変な顔になった。

「でもさ、実はまどかつて」

そこで言葉を切つて、ちょっと困つたような顔をしている。言葉を探すみたいに、目の前の空間をぎよろぎよろつとした。彰宏くんは勉強もよくできる子だ。彰宏くんに見つけられない言葉なら、きつと私にもつかまえられるだろう。

「——女の子だったんだなあ」

「はあ？」

⑥ 間の抜^ぬけた声が出た。

「実はも何も、昔っから女の子だよ」

⑦ 「いや、知らなかったんだ、俺。っていうか、今まで気づかなかった」

「はああ？」

「ま、気にすんな」

そういうと、彰宏くんは道場の戸を勢いよく開けた。なにいつてんだ、彰宏くん。失礼しちゃう、今さら気づいたなん

て。つまり今まで私は女の子じゃなかったってことだ。

「むう」

思わずうなったら、彰宏くんがもう困っているふうではない、気のよさそうな顔で振り向いた。

「ふん？」

ふん？　じゃないよ！　せいぜいそうやって油断していればいいんだ。いつか一本背負い決めて投げ飛ばしちゃうんだからね！

「こんにちは！」

「こんにちは！」

並んで大きな声で挨拶あいさつをしながら、私はひそかに隣の彰宏くんとうしに闘志とうしを燃やしていた。

（小路幸也・宮下奈都『つむじダブル』より。一部表記を改めたところがあります。）

* 一本背負い……………柔道の技の名前

問1 ——— 線①「触れまわり（る）」・⑥「間の抜けた」のここでの意味としてあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-------------|---------------|----------|-------------|
| ①「触れまわり（る）」 | | ⑥「間の抜けた」 | |
| ア | 色々な所をさわって歩く。 | ア | ひどく調子外れな |
| イ | ひみつの話をこっそりする。 | イ | かなり時間をおいた |
| ウ | 命令をみんなに伝える。 | ウ | すこしテンポが速い |
| エ | あちこちに言って回る。 | エ | とても元気で調子がよい |

問2 ——— 線②「そこまで考えていて、ぞくぞくと背筋に寒気が走った」とありますが、この部分の「まだか」の様子としてあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア おかあさんが櫻井華子と友達だということを隠していたことに気づいて、どこでどのように仲良くなったのかを教えてくださいなかつたことに腹を立てている様子。
- イ おかあさんが結婚する前に何をしていたかを知らないことに気づいて、おかあさんには何か自分の知らないところがあるのではないかと思い、こわくなっている様子。
- ウ おかあさんが何かやりたかつたことを途中でやめたという話を今朝初めて聞いたので、今までそのことを教えてくれていなかったことにショックを受けている様子。
- エ おかあさんが櫻井華子と友達だということを今までいわなかつたのは何か理由があるのだろうと思って、みんなにそれを隠していることを後ろめたく思う様子。

問3 — 線③「それは頭上に太陽が出ていたからなんだ」とありますが、

(1) 「それ」のさす内容を答えなさい。

(2) 「頭上に太陽が出てい」とはどのような様子のことですか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 家族でどこかに出かけたときに、天気もよく充実した時間を過ごせたので「まどか」も楽しんでいる様子。
イ いつもあたたかく元氣な家族の中にいることで、「まどか」の冷えた気持ちもあたためられた様子。
ウ 教育に熱心でがんばり屋の多い家族の中にいることを「まどか」が少し暑苦しいと感じている様子。
エ 家族みんなが明るく、ひみつも心配ごともなく元氣でいるので「まどか」も安心していられる様子。

問4 — 線④「それだけで、空の色が変わったような気がする」とありますが、

(1) 「それ」のさす内容を答えなさい。

(2) (1)のことで「空の色が変わったような気がする」と感じたのはなぜですか。わかりやすく説明しなさい。

問5 — 線⑤「うん、ほんとに、ここがあつてよかった」とありますが、「まどか」は「道場があること」のどんな点を「よかった」と感じているのですか。二つ答えなさい。

問6 — 線⑦「いや、知らなかったんだ、俺。っていうか、今まで気づかなかった」とありますが、「彰宏くん」のこ

のことはどんな気持ちがおこまれていますか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今まで「まどか」が女の子だということに気づかないふりをしていたのに、それをはつきりさくらなければならなくなつて、悲しむ気持ち。

イ 今まで「まどか」の女の子らしくないところを気に入っていたのに、「まどか」にも女の子らしいところがあつたことに気づかされて、がっかりする気持ち。

ウ 今まで「まどか」のことを仲間だと思っていたのに、女の子だと認識するようになったことで仲間とちがつた関係になることをさびしいと思う気持ち。

エ 今まで「まどか」が女の子だとわかっていてもそれを特に意識することもなかったのに、やはり女の子だったんだと改めて感じて驚く気持ち。

問7 — 線⑧「私はひそかに隣の彰宏くんに闘志を燃やしていた」とありますが、それは「彰宏くん」の発言に対して「まどか」がどのような気持ちになったからですか。わかりやすく説明しなさい。

問8 文中に「まどか」の心の中の情景をえがいた部分があります。その部分のはじめとおわりの7字をぬき出しなさい。

